

# 気持ちに寄り添えば、自分から動き出す 青南幼稚園ホームページ・幼稚園ブログ（6月8日）

■ 2020/06/08 ■ 気持ちに寄り添えば、自分から動き出す

先日から、入園したばかりの3歳児は、園に慣れるのに、それぞれのペースがあることをお伝えしています。  
今日は、ある子の30分ほどの様子を通してそのことを再度お知らせします。

この子は、大泣きしながらお父さんに抱かれて登園してきました。何と、今朝お兄ちゃんになったのだそうです。おめでとうございます！うれしいことだけれど、お家の中は今朝は大変な状態だったでしょう。朝ごはんは、きっとおばあちゃんが作ってくれたのでしょう。ただでさえ幼稚園に行くのは、ちょっと勇気がいるときなのに、お家の状況がいつもとは全く違うのですから、不安な気持ちがあったお父さんと離れたくないのは当たり前です。

無理やり引き離すことはせず、泣き止むまでお父さんにいてもらいました。他の子が部屋に入ったところで、私がそばに行くともまだお父さんにぐっとしがみつく様子で、まだ不安な様子でした。

畑にカエルがいるからとお父さんと一緒に見に行きました。



こんなとき、青南幼稚園には子どもたちの気持ちを紛らわしてくれる豊かな自然がたくさんあって、本当に助かります。しばらく、カエルやミカンの木についていたアオムシや卵を見た後、だいたい落ち着いてきたところで、そろそろお父さんから預かろうと思いました。お父さんから離すときに、私が抱くと泣きましたが、そこでお父さんにはお帰りをいただきました。後でちゃんと迎えに来るからねと、穏やかに言って帰ってくれたお父さんに感謝です。ファインプレーでした。

泣きながら「抱っこは嫌だ」と言うので、下に降りると、それ以上泣いたり暴れることもなく、ウッドデッキに座り込んだので、しばらく一緒に横に座って、年長の砂場での遊びの様子と一緒に眺めました。

こんなときに、私は何かを求めることはしません。ただ、隣に座って同じものを見るだけです。年長さんあんなに大きな山を作っているよ、すごいね。などつつやきながら、一緒にいてあげるだけです。



少し落ち着いたところで、近くにあったカタバミの種を摘んで、触ると飛ぶところを手元で見せてみました。触るとプチッと弾けて、小さな種が中から飛び出します。



不思議な感触と小さな種が飛ぶことに興味をもってくれたようだったので、プランターのところに行ってみました。ここでも「行ってみる？」とつぶやいて、私は先に動きました。来るかどうかは本人に任せましたが、自分の意志でやって来ました。「～しよう」と猜測的には誘いません。指示も、命令もしません。



どうやらこの辺りで、この先生はお父さんの代わりに自分のことを分かって、相手をしてくれる人だと、安心してくれたようです。子どもは、安心すれば、必ず自分から動くのです。

しばらく種を触って遊んだところで、「先生に見せに行こうか？」と部屋の方へ動くと、自分から歩いて来ました。その前に担任は、最初にお父さんから離されて泣いているときに、「待っているからね」とちゃんと声を掛けてくれていたのです。このひと言も、ここに至るためにはとても大事な布石です。



「園長先生も靴を履き替えて、お茶を飲もうかな」とつぶやきながら私が靴を脱ぐと、自分で靴を脱ぎ始めました。



私は、靴箱のシールが「おいしそうなブドウだね」と言っただけですが、脱いだ外靴を自分の靴箱に入れて、上履きに履き替えました。



## 気持ちに寄り添えば、自分から動き出す 青南幼稚園ホームページ・幼稚園ブログ（6月8日）

部屋に入ると、自分のリュックからタオルを出して、



麦茶を注いであげると、おいしそうに飲んでくれました。



タオルをかけて、手も洗って、



リュックと帽子をロッカーに掛けるところは教えました。それが終わると、すぐそばあったブロックで遊び始めました。



私はいつも、カメラや剪定バサミなどが入ったバッグを腰にぶら下げて、園内や園庭を歩き回り、保育に関わっています。

青南幼稚園の教職員は、一生懸命子どもたちのために保育をしてくれています。主任、担任、保育補助の先生方、事務補助、用務主事さんも含めて、今年も素晴らしいスタッフです。それぞれの立場で、常に前向きに、笑顔で支え合って働いてくれています。

それでも足りないところを埋めたり、調整したりすることは必要です。私は、先生たちに目指す幼稚園像を伝えていますが、それを実現するためには私自身が先頭に立ち、共に汗を流すことが必要だと考えています。というより、その方が楽しいのです。「木の床屋さんだよ」と安全対策や自然環境の整備をしつつ、子どもたちに遊びの種をまき、あちこちに声を掛けながら子どもたちや先生たちとの信頼関係を築いているつもりです。

子どもへの関わり方のモデルを示すこともします。私がこの日、この子に関わったのは「子ども」に対する絶対の信頼があったからです。気持ちに寄り添い、少しずつ気持ちをほぐすようにそっと横に居てあげることで、子どもは必ず自分から動き出します。このことを信じられたのは、長年保育を実践し、多くの子どもたちや先生、保護者の皆さんと関わる中で、「子ども」や「人」について学ばせてもらったお陰です。子どもを信じること、寄り添って待つことの大切さ、つまり私自身の子どもや保育に対する基本的な姿勢を感じてほしいと思い、直接私が関わったのです。

写真は、主事さんに撮ってもらいました。一部始終を見ていた主事さんは、私の関わりに感服したと言ってくれ、素直にうれしい思いでした。そして私自身は、子どものしなやかさに感服し、親と子の心の絆が結ばれているからこそ、この姿があることを再確認することができました。

ほんの30分ほど前には、大泣きしていたことが、うそのように穏やかな様子で遊び始めました。もう、私の出番は終わりです。

子どもとの関わりの中で大事にしていることは、気持ちに寄り添うことです。不安で泣いている子には、お迎えに来てくれる心配だよねと投げたボールを正面で受け止め、まっすぐに返してあげると子どもは気持ちを受け止めてもらえたことで安心するのです。安心すると、自分から動き出す力が湧いて出てくるのです。

今日は、いろいろな要因がうまく重なって、いい形で自分から動き出すことができました。

一人一人状況は違えども、どの子に対しても、幼稚園で一番大事にしたい自分から動き出す構えは、このような日々の指導を少しずつ積み重ねていくことで引き出し、育てていきたいと思えます。